

武教全書口訣

伏戰

廿四

|      |     |
|------|-----|
| 武教全書 |     |
| 部門   | 一乙七 |
| 番號   | 六   |
| 冊數   | 二八  |

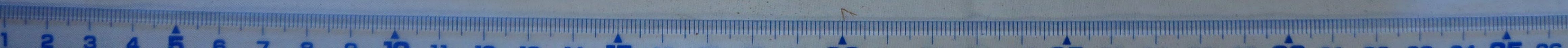


武教全書口訣

伏戰

山林茂草不入于物後二人教之  
後七葉  
不意乃擊乃  
度伏之事

度其下  
卷之十  
教之十  
或八  
百三  
百





武教全書口訣

伏戰

山林蔽葦入于物陰以人數ヲ隱置

敵人不意ヲ擊ヲ云爾

覆伏之事

下ノ下讀上ノ下、下ノ下之字ヲ用ル

下ノ下之字ヲ用ル

意替以アリ

覆兵ト云ハ人数千二千或百二百



力リミ林木山陰村里ノ内ニ隠シ置具不  
 意ヲ討ヲ云也村力マリ里力マリ捨力マ  
 リ大カマリト之是也  
 打ハ民屋聚會ノ此處彼處ニ連リ居ル  
 處ヲ之里ハ民屋五十程エアル處ヲ云  
 捨ヌリハ敵城或ハ敵國ハ夕ヲキ入  
 テ力捨テ敵追討ヲ引取唯キ事アリ  
 力以ノ寸ヨキ地取アル寸ハ兵ヲ伏テ引  
 力嫌テ音ヲ云之大ヌリハ戦ノ時丈人數ヲ

伏テ不意ヲ討ヲ云之如是アルヲ云  
 覆ウト云字ヲ用ルヲノ事ハ  
 兵汰曰覆則其人衆云又曰獸駭者覆也  
 大人數ヲスルヲ覆ト云之故トキニ  
 山中ノ獸ヲト口キヤハキテ里入出ル  
 是大人數其地ハ伏タル故居ヲ犯テ  
 一伏兵ト云ハ人數五人十人乃至五十三十  
 割力出テ力ヤ力ヤ原ハキ富十ノ内ニ

隠シ置テ敵ノ氣ヲウハケ物見武者ト  
ヲ討ヲ之ニフクカマリフシカマリ草カ  
マリ草ヲフスルトト之是也

敵ノ氣ヲ奪フハ不意ニヲヨリ大勢ノ  
勢ニヲトス

兵法曰伏則其人寡之又曰鳥起者伏也

小人數ヲ用ルヲ伏ト云之鳥起トハソ

ハ伏アルト上ヘハ小人數ナレハ獸ヲト

口クニハ主ラズ鳥ハ一人ヲ見テ立

云モノ之意ハ敵ヲトハハ敵ハ林木

○覆兵伏兵武功之事

一 二 三ノ覆兵ノ事ハ世々ニ勝敗ノ道

是大人數ヲ三段ニ伏置テ敵来ルト初

伏テ敵ノ氣ヲ奪フソノ区メク此ヲ二

段ノ伏ヲ以撃之三人伏ニテ勝利ヲ得ル

是ハ必三段ニハ限ラズ幾處ニフセ

大天モ口ハ心得ハ一度ニ起リ一處ニ成

テハ其詮ナキハ十面埋伏ト云ル意

一 大蒸リヲ用ル事

一 捨蒸リノ事

コノニケ條ハ前段ニ出之

伏兵ノ章ニ云リ

一 伏兵出立取相詞相印ノ事

一 出立寸ニ間違トキ如クニ相詞ヲ能定

○ 申聞セ相印ヲ同シ様ニスヘシ敵味方

ヲ分ツ爲ク大指物トトノ類ハ林木ニ

一 伏カ奉リテ患シ白布トトヲ用ユヘシト

カク伏兵ハ身証ニ出立ヲ善トスル

ナリ

一 敵ニ因テ用捨ノ事

伏兵モ智謀ノ良將ニケ用ニ准シ

一 洞勢ノ遠近アケシラニ勢コ、口得ノ事

洞勢ト伏兵トノアハケ遠近ニヨリテ

アケシラニ勢ノ心得アリ會叙ニ勢ハ

敵ヲ、ニキテ伏ル場ニ引カケル勢ハ

ソノアイシラニ様ノ心得ハ伏ハ具場  
ハ敵カ来ルトテ出ルカ相圖ニ扱伏  
ヲ以ハ敵ノ備ヲ乱サシメ炯勢ヲ以討  
トルニ然レハ伏ト炯勢トノ間遠キ可  
ニ石ノ処ハ敵引カケテハ伏起リテモ  
具詮ナク却テ立ラレテ恣ニ然レハ  
炯勢近ツキ伏トサシハサミテ討立ラ  
ルニハ亦進ニヨリタビテ右各場ハ敵  
ノ来ル如クアイシラ口ウヘシ

一 伏ノ立様ノ事

隨分速カニ立ヘシ猶隊ノ敵ニ見付ラ  
レテハ不直ニ立テ討テ出ル事ニ

一 至テ大軍ニ伏ヘカウ又至テ小勢ニ伏ヘ  
カウナル事

一 是ハ彼我ニカ、ルニ敵至極ノ大軍ナ  
レハ伏ヲ用テ詮ナシ味方又大軍ナレ  
ハ伏ニ及ハヌニテ勝ルニ敵至テ小  
勢ナレハ伏ヲ用ルニ不及勝利アリ味

方味方を極ノ小勢下ルニ伏ヲ用レハ  
人数分散ノハ夕下薄ク下ル故伏ハ用  
ニ可ル刀ヨシ  
一 必下ル處ニ伏ヲ置ヘカラテ事  
誰カ見テモコノ處へハ必伏兵ヲ置ヘ  
キ處ト思フ場處へハ置ヘカラス敵モ  
用心ヲナス故ニ伏ヲ置テモ其詮ナキ  
一 草ヲ結テ事

是手段ハ前段ニ有之通必伏ノ場處ニ  
テ敵モ用心ヲナス處ハ人数ヲハ伏セ  
又草ヲムスニ置人跡ヲナシ或ハ木茅  
トトキリアケテトノ人数ヲ伏置タル  
休ヲナシ置事ニ然ル時ハ敵疑惑タリ  
テ其諦ヲナシ午高ヲシ人数ヲノコシ  
分散スル故伏ヲ置スニテ置タルニ當  
ル道理ニ  
一 足輕ヲ伏テ置ニハ江川ヲ隔テ事



一 又へテ活フケノ類陰ヲヘクテ、伏置  
ニ足怪ハ素ヨリ弓鉄ヲ專ラトシテ刀  
鎗ヲハシテテ不用故ニ平場ハ宜シカ  
ラズ敵来ルト右ノ險ヲ前ニ當テ弓鉄  
ヲ以テ立シムルハ不然ハ匹夫故敵強  
ク御ハ臆氣出却テ駈立ラレテテ  
トル事アル者ニ  
一 敵ノ氣ヲ考ル事  
一 是敵ノ氣ハ盛衰ヲ考量シ事ニ  
勢ニ

一 二テモ氣ハ盛ニナル時ハ伏置リテモ  
其詮ナク大勢ニテモ氣ハ衰ハナル時  
ナレハ大ニ利アリ然レハ己ノ氣ヲ考  
テ其衰ヘ急ニ處ヘ起テ討ヘシ  
一 覆伏ノ本意ヲ知事  
一 伏ヲ用テハイツモ勝ト云ニハ非ズ敵  
ノ備全クハ實ナク此ハ下テテ其詮  
ナク故ニ實ニ伏シ處ニ合リテ撃テ  
一 合是取人上ニ就テイウ

一 合其リノ事

味方伏ヲ置タル處へ敵ヨリモ又来リ

テ伏スルヲ合其リトイウコノ時ハ敵

ノ伏兵イマタ其ラナル内ニ味方起リ

テ撃タルカヨシ敵モ其リテハ合位ニ

ナル故不直ニ敵先へ其リテラハ速ニ

其地ヲ通滞ルヘカラヌ

一 八重其リヲイフカキ物聞ノ事

八重其リトハ敵カマリタル處ニ味方

跡ヨリカマリテハ八重ハスヘテ重ル

事ヲ去伏ハ後ニ其リタル方敗レテ取

レ人ハ故ニ是ヲイフカキ物軍ヲ用

ユヘシ委クハ介候ノ篇ニ出セル

○地下伏兵此功之事

地下伏兵ハソノ地ノ御民野伏ヲ伏ニ

用ルヲイウ

一 手賦リ人数割ノ事

地下人ハ作添ヲ知ラサレテハ旗

本ヨリ武功人士ヲ頭ニ申付テ予配リ  
人数ハリヲヨク々遇不及ノ十キ様ニ  
スヘキハ警ヘハ何村ノ者ハイツレノ  
處ヘ伏ヘシト之遣ハ是予當心何レノ  
處ヘハ何十人行ヘシト之是人數ワリ  
十リ  
一 山中狩人弓鉄炮ノ事  
平生山ニ入テ狩ヲ業トシ弓鉄ニ馴テ  
逢者十ル者ヲ伏ニ用テハ山中人案

一 竹鎗紙小旗ノ事  
地下人ハ常鎗旗ヲハ不持合己ノ之故  
竹鎗ヲ用テ戦ハシノ紙旗ハ相驗ニ  
用相ツノ旗ハ紙ニテハ不洩故ニ旗本  
ヨリツカハシテ是ヲ以進退分合ハ差  
引ヲオサシノテ紬束ヲ定相圖ヲ十ヲ  
林ニ合ハシカ  
兵法曰伏有九伏十一伏之汰其所傳惟九

伏而已一日山伏二日土伏三日草伏四日  
林伏五日夜伏六日烟伏七日水伏八日津  
伏九日偽伏

山伏ハ山陰ニ因テ歟ヲ隠スニ土伏ハ  
此歟早下ノ處ニ伏ス草伏ハ草ノラノ  
中ニ伏ス林伏ハ林木ノ中ニ伏ス夜伏  
ハ草ヲキレテ伏ス烟伏ハ煙ヲキレテ  
伏ス水邊葦原橋ノ下舟ノ中嶋  
陰ニ伏ス津伏ハ湊々多人數ノムラノ

山中ニ紛レテ伏ス偽伏草ノツ品リテ

物歟ヲ疑惑セシムルニ不入テ伏ス偽リ

隠レテ歟ヲ不知場不意ニ起ルニ丘十

ケレテ伏ス詮ナシ殘ル伏モ己ノ偽伏

ノコノ口得テ用ルニ要人

○覆伏ノ有無ヲ謀物見之事

歟ヨリ伏ヲ置クハ不置ルト伏ノ有

無ヲ討知ノ物見ノ事ヲ云フ

一人馬ノ足跡ヲ考人氣ヲ考ル事ニ細可

伏アレハ人馬ノ往来シタル足跡有ヘ  
シ借人ノ集リ伏シタル處ニハ人氣立  
モノニ是ヲキヲ付考見ルヘシ  
一 故トクシテ鳥獸駭ク事

何クハ事エトキニ山中獸ヲトロキテ  
里へ出鳥立タルハ是敵ヨリ敵ヲ置ク  
ルユヘニ駭キ立ル  
一 艸木ノ気色常トラサル事

伏アレハ木ノ板折カケ草トト踏付ク

ル跡アリケシキ常トラサル者ハコノ  
処ニ気ヲ付テ見ルヘシ

一 野虫聲セサル事

夏ヨリ秋ニ及フ迄ハ原野ニ虫鳴モノ  
ク然ルニ伏アリ人音アレハ声ヲ止モ  
ノク気ヲ付ヘシ

一 蜘蛛糸ヲハラズ草露少キ事

夕モノ固有ヘキ処ニ糸ヲハラズ或ハ  
切レテ有リ草ノ露深ナルヘキ処ニ露

一 疑ハシキ處ハ夜物見ニ行ニハ礫石ヲ持  
行事

小石ヲ多少持テ行コノ處ニハ伏ハ無  
カト疑シク心元ナク思入ハ石ノ石  
ヲ以テ歩人ノ有無ヲ考見ルハ人居レ  
ハ手應ハズルモノ心又伏ノ中ヨリ投  
テ石ヲト思テ声ヲ立ル事有モノ也

一 敵ノ援子ヲ窺テ伏覆ノ有無ヲ知ル事

敵我ヲハカル仕訳様子ヲウカ、口察  
メ伏ヲ設ケルカ又ハ置ケルカヲ考メ  
知入シ

一 切處ヲ遠ク出テ戰フニ伏アル事

防戰ヲナクハキヨキ切處アルニ敵ノ  
レヲ超越テ遠ク進ミ出戰ヲナク是石  
ノ切處ニ伏ヲ設ケル者ニ戰ヲナクニ  
其心得ヲスヘキ也

一 切處ヲ遠ク退テ備ヲ立及ハサルヲリテ  
致スニ伏アル事

切處アルハソレニ便リテ備ヘキニ其

險ヲ遠ク引退テ備ヲ立我ニ敵スル事

ナラスカノ及ハサルヲリテスルハ右

ノ處ニ伏テ置テ我ニ何トテテ險ヲ越

セテ撃入キ爲ルコトニ宜心ヲ付テ答カ

リ知入シ

一 退マシテ依テ遠慮ノ事

一 敵敗テ引テ去ルニ足並揃ハスノ事

下知ヲ知合テモウキ立テ我乃今ニ退

實ニ敗走スルニ又足並揃モ乱レズ

我追カノト思テシタルヲ退ハ伏テ置

テソノ處ニ我ヲ引カケニ爲ノ手段ニ

虚ノ退ヤウニ遠慮ヲ示テ追討ヲ十

スニコト得アルハ

一 小勢ニシテ深ク敵ニ伏アル事

小勢ニシテ深慮ハテ難堆ニ然ルニ深

一 敵ハ別取處ニ伏ヲ設テマヘアル

一 敵ニシテ動カズ聲ナキニ伏アル事

一 彼我ニ不意ニ出會タルニ敵少モ動轉

也ス声ヲモ不立静ニ落着タルニ伏ヲ

置タル故是ヲ以勝タルニ思フ

故ニ如是必伏アルニ心得戦ヲ

下スニ其備ヲ成ス也

一分限ヲ知ル事

一 是伏ヲ考ル大曲尺ノ敵ハ分限ヨリ人

數ヲ考ヘツモリ其考ヨリ少勢ナルハ

是人數ヲ分テ伏ヲ設タル物ニ或ハ廻

シ備ナク用タルカニツモリホトアレ

ハ伏ハ不置ニ

一 心ヲ可付事何地敵ノ事

一 戦ニハスヘテ伏ヲ用ルニ利アル者ハ

サレトモ廣原平陸ノ地ニハ設ラレヌ

シ寔ニ心ヲツケ山林草木ノ茂リ芦原



ノ類ノ地取ニ心ヲ付テ伏人置ルハ  
地取トシテハヨク探リテ敵ノ伏ニ會  
又如クスル事所要

○覆伏ノ有無討リ難キ略謀功之事

敵覆伏ヲ設クハ力否ノ量リ難キ事  
ヲ知謀功午段ノ事

一先押行テ又引取付テ又事

コノ處ハ伏アルハキカト思フ也  
先  
押寄テ引取テ又見スル也

左スルハ伏アルハ我ニ見付テ  
ト思フテ出ル者

一○聲ヲ發テ窺フ事

石ノ如クウタカハシキ處ハ推寄テ  
ヲアケ關ヲ作リテ具處ニ討テ蒐ル如  
シテ窺フハシサスレハ伏アルハ兼テ  
打テ出ルカ或ハ逃走ルカスル者

一銃砲荒火矢ノ事

石ノ如伏ノ有無シレ堆キ略シテ處

推ヨ也テ銃炮或ハ火矢ヲ放懸テ量ル  
ハシ伏テレハ我知タル下心得必討テ  
出ル者也

石河レモ實ヲ以ハカルハキ事也

前段ニイエルハ察シ考ル下ニテノ段

現在ニ其處ヲサタリ見ル征敵ノ志

○覆伏ヲ防ク心得之事

山林衆草村里芦原スレテ是ニヨリテ  
兵ヲ伏ルニ便アル地故ヲ覆伏ノ地ト

不ウ如是ノ敵ヨリ伏テ置ヘキト思フ  
場ヲ離レ行ハシ其方ハハ不出平陸  
ノ方ヘ行ヘキニ平陸ノ處ハハ伏設テ  
レサルニ

一 備ヲ置テ繰懸ル事同テ毎人物見ノ事

作込別卷ニ出之

伏アルハヘキト思フ處ハ敵備ヲ四行ニ

如疊ミクリ懸リニ何レノ備ヨリモ物

見ヲ遣ハシ先ヲ審月知テ進テ別

卷八 練陣ニケリ掛リ俛ヲ置キ事委シ

一 敵ノ伏ヲ味方ニ取事

敵ノ伏ヲ察是ヲ可討俛ヲ設置シテ其

伏ヲ知ラサル如ク月ノ行懸リ虚ヲ

示シ敵ノ伏虚ト見テ必討テ出ハシ其

處ヲ右ノ俛ヲ以撃取ハシカクスルヲ

味方ニトルト云又味方ニ俛全ノ敵ノ

起ル事ナラサル如ク又ト云ト畢竟

伏ヲ起ラシテ討當或ハ起ル事ナラサ

此如クスルヲ云何レノ道ニモ伏ヲ置

クル詮ナク敵ノ役ニ云カル如クスル

ヲ味方ニトルト云

一 阴阳ノ俛有ヘキ事

我俛阴阳ノ俛正シク助政ノ理ニ似如

ク全ク設ヘシ是所要ニ我俛正キ可ク

敵兵起ル事ナラズ譬ニ敵ノ伏ニ不意

ニ出會フトモ我俛混雜スル事ナラズ我

俛正シカラサレハ前ノ三ヶ条モ不被

用心

兵法曰搜伏之法遠入虜地營壘生疎道路  
險隘恐其設伏尤當先登伏兵將縱橫搜  
索則無跡失善搜伏者必依四搜之法炬火  
組竹打石連弩搜生而縱死搜向而縱背縱  
火於東而靜搜於西登弩於左而靜搜其右  
是曰搜伏

伏ヲサキルハ人汰ヲ説敵地ニ入營壘陣  
屋ニ踈ニアラマシニ十ニテ具道路

千々山阪ノ險アリセハハクシキ処ニテ  
ハ敵ヨリ伏ヲ置マシテカノ恐アリ如  
是疑シキ処ニテハ先此方ヨリ兵ヲ登  
之推寄テ伏兵ヲ追立具此ヲ豎横ニ搜  
リ索ノテ踈失ナキ様ニスヘシ炬火ハ  
夜中ナレハタイマツヲ投入テ搜ルル  
經行ハヲツト讀火行ノ先ニ繩ヲ  
ツケ四方へ整へヲトリ具行へ昇リテ  
高ヨリ窺フニ折石ハ多ク石ヲ打込テ

探心之連習少石弓子及心合致之及心

也

